

人にふれ、文化にふれ、新しい韓国を発見!



景福宮内にある国立中央博物館。



ガイドさんは、見事な日本語で熱心に説明してくれた。



景福宮は1395年に創建された。その中心となる勤政殿。

17・10 広い境内は内外の観光客でいっぱい。礼智院(エーチウォン)は韓国女性のカルチャーセンターだ。茶道、華道、陶芸、料理、民族

道、陶芸、料理、民族

◀空港からいよいよソウルへ。



13・35 空港からバスでソウル市内へ。ソウルは人口約九五〇万人の大都市。最近車が増加に道路整備が追いつかないほどだという。
14・10 景福宮(キョンボクン)に着く。



韓国本土にさしかかる

十月十日(水)

熊本—ソウル線は、熊本空港唯一の国際定期便です。開設五周年を迎えた今年、「韓国モニターツアー」が企画されました。これは、一般公募で選ばれた三十人のモニターが、十・十一・十二月の三回に分かれて韓国を訪ね、その魅力を広く県民のみなさんに伝えようというものです。すでに実施された第一回ツアー(十月十日〜十二日)のもようをここに紹介します。

11・30 熊本空港を離陸。
12・05 韓国本土が見える。
12・40 ソウルの金浦(キンポ)空港に着陸。熊本から一時間余りだ。
13・35 空港からバスでソウル市内へ。ソウルは人口約九五〇万人の大都市。最近車が増加に道路整備が追いつかないほどだという。
14・10 景福宮(キョンボクン)に着く。

十月十一日(木)

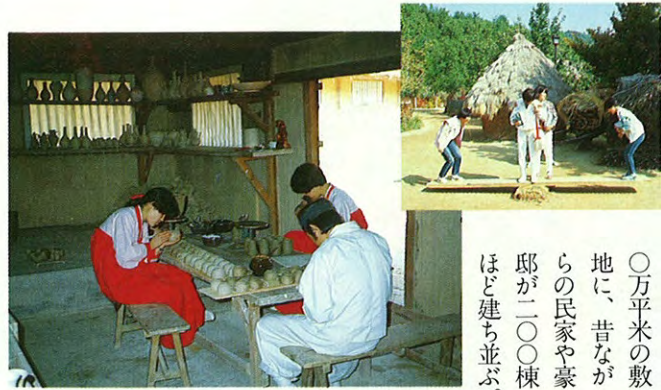
9・05 ホテルを出発。
9・40 京釜(キョンポ)高速道路を快走。最高のドライブコースだ。



京釜高速道路は、非常時には滑走路になるという。

9・50 韓国民俗村

(ハンクック・ミンソククチュン)に着く。七〇万平米の敷地に、昔ながらの民家や豪邸が二〇〇棟ほど建ち並ぶ。



民俗村では、王朝時代の庶民生活を再現している。

13・50 オリピック総合競技場を見学。メインスタジアムのほか、室内競技場や水泳場など、韓国の建築技術の粋が集まっている。



10万人収容のオリンピック・メインスタジアム

15・10 東大門(ドンデムン)市場は人と物であふれんばかりだ。店々からの掛け声。屋台風の飲食店。道端に魚や野菜を並べたおばちゃんたち。生活のパワーを感じる。



東大門市場の生地売り場。カラフルさが、いかにも韓国らしい。

19・18 「韓国の家」に着く。夕食は純韓国風だ。辛いけど、おいしい。
20・24 館内の民俗劇場で、伝統芸能が始まった。リズムカルに飛びはねる踊り。優雅な舞い。伝統楽器の奏でる哀しい調べ。韓国文化を満喫しながら、ソウルの夜は更ける。



伝統芸能は情緒たっぷり。

十月十二日(金)

9・35 昌徳宮(チャンドクン)。一四〇五年に造営された李朝の正宮で、観光地として、静かな思索の空間として多くの人々が訪れる。



住宅密集地は、日本のそれと変わらない。

11・15 空港へ向けて出発。
12・10 金浦空港に着く。
14・50 離陸。短い旅で少し名残惜しい。でも熊本からは目と鼻の先だ。「近くて遠い国」といわれた韓国。しかし韓国を訪れ、文化と人情に触れた今、距離はない。

※熊本—ソウル線についてのお問い合わせは
熊本県交通計画課へ
(☎096-383-1111)